

学科としての教員養成の目標、計画、教育の質向上の取り組み

生命工学部 健康栄養科学科（一種・栄養教諭）

① 教員養成の目標

本学科では、栄養教諭一種免許状の取得を通して、豊かな人間性と高い倫理観を備え、食育を推進する中核的な役割を担うことのできる栄養教諭の養成を目指している。栄養教諭一種免許状の取得には、管理栄養士養成課程の修了により栄養士免許を取得し、さらに管理栄養士として必要な専門的知識・技能を身に付けることが求められる。そのため、本学科では、栄養に関する高度な専門知識に加え、科学的根拠に基づいて情報を収集・分析・評価・判断できる実践的能力の育成を重視している。また、近年、児童・生徒を取り巻く食の課題として、朝食欠食、偏食、肥満・痩身、孤食などが指摘されており、望ましい食習慣の形成や生涯にわたる健康づくりの基盤となる食育の充実が求められている。

そこで、本学科では、「生きる力」を育む食育の推進役として、教育に関する資質能力と栄養に関する高度な専門性を兼ね備えた栄養教諭を養成することを目標とする。

②教員養成の計画

本学科では、管理栄養士養成課程と栄養教諭教職課程を体系的に履修できるカリキュラムを編成し、専門知識と教育実践力を段階的に修得できるよう支援している。2・3年次には、栄養に関する専門科目および教職科目を通して、食に関する指導の理論と方法を学ぶとともに、模擬授業や演習を通じて実践的指導力を養う。4年次には、教育実習や教職実践演習を通して、学校現場で求められる実践力や課題解決能力を身に付け、栄養教諭として必要な資質能力の総合的な向上を図る。

また、学生が長期的な見通しを持って学修を継続できるよう、担任教員や教職課程担当教員による履修指導や個別支援を実施し、主体的な学びを支援する。

③教員養成教育の質向上の取り組み

本学科では、学校・家庭・地域をつなぐ「食のコーディネーター」として活躍できる栄養教諭の育成を目指し、実践的指導力の向上に取り組んでいる。具体的には、児童生徒が「食について学ぶことの楽しさ」や「できた・食べられた」という自己効力感を得られるような指導方法について学び、課題解決型学習（PBL）や食行動変容ステージモデルを活用した食育指導を実践できる能力を育成している。加えて、教育実習報告会や授業アンケート、教職課程委員会等を通じて教育内容を継続的に点検・改善し、教員養成の質保証と資質能力の向上に取り組んでいる。
